

ひょうご

県知協

NEWS

〈兵庫県知的障害者施設協会機関紙〉

発行 一般社団法人
兵庫県知的障害者施設協会
〒651-0062
神戸市中央区坂口通 2 丁目 1-1
兵庫県福祉センター5階 502 号室
TEL (078) 862-6026
FAX (078) 862-6082
E-mail:hyogo-kenchikyo@dance.ocn.ne.jp
発行責任者 蓬 菜 和 裕
印刷所 交友印刷株式会社

活動報告

一般社団法人 兵庫県知的障害者施設協会 会長 蓬 菜 和 裕



障害者自立支援法に代わり障害者総合支援法が施行されて半年が過ぎました。

会員の皆様方の事業所では何か不都合が発生していないでしょうか。もし問題が発生しているのであれば、ぜひ協会まで情報をお寄せください。

さて、本年度の総会では、提案させていただいた議案につきまして慎重審議の結果、提案通り全てご承認いただきました。ありがとうございます。総会から半年が経過しましたので、これまでの事業の進捗状況を報告します。

職員研修の充実については、10月2日・3日の2日間、有馬温泉におきまして、スーパーバイザー養成研修を実施いたしました。サービス管理責任者の役割は個別支援計画の管理にあります。個別支援計画に示されている利用者一人一人の思いを実現するには、利用者支援に関わる各職員へのスーパービジョンは避けて通れません。サービス管理責任者には、スーパーバイザーとしての資質が問われます。今回の研修結果は、後日、研修委員会から報告いたします。

平成 26 年度虐待未然防止支援事業（県委託）については、権利擁護委員会の事業として位置づけ、現在、関西福祉大学の谷口 泰司准教授と播磨地域福祉サービス第三者評価機構の河原 正明事務局長の2名をアドバイザーとして虐待防止に関する調査研究を実施しています。

協会の組織強化については、協会事務局の充実を図る必要があります。人件費を含む事務費の捻出が大きな課題となっています。補助事業の獲得や協会としての収益事業、剰余金の活用等について正副会長会議において現在検討しています。

ホームページの作成については、業者を2社に絞り込み、各社のプレゼンテーションが終了しました。今後は、業者決定とホームページのデザイン等を皆様にご提案したいと思います。

政策提言については、皆様から寄せられた要望や意見を正副会長会議で取りまとめ、他の団体提言との擦り合わせを行い、最終的に、「相談支援体制の充実・強化」と「障害者通所事業所の送迎加算について」の2点を当協会からの提言として兵庫県社会福祉協議会の社会福祉政策委員会へ提出いたしました。今後は、3地区でそれぞれ取りまとめ、当協会の提言となるよう組織化を図っていきたいと考えています。

また、社会福祉法人のあり方検討会における、社会福祉法人に対する課税の問題ですが、日本知的障害者福祉協会から、9月中に各都道府県の与党議員に課税反対の要望書を届けるよう要請がありました。これについては、全国経営協からも各都道府県に同じ要請があり、兵庫県では、経営協や当協会を含む各種別団体から要望書を届ける事となり、9月中に、全ての与党議員へ要望書の届けを終了しています。この問題については、今後も各関係機関と連携をはかりながら取り組んでいきます。

第 26 回全国グループホーム等研修会（兵庫大会）を終えて

兵庫県知的障害者施設協会 事務局（大会事務局）

近畿が当番地区とのことで、近畿 2 府 4 県の地域支援部会委員が兵庫の事務局に集まり、内容の検討と参加を募る事務作業を進めてきた標記の全国大会が、去る 7 月 24、25 日（木・金）に神戸ポートピアホテルを会場に開催されました。「地域の中で安心できる住まい、暮らしを創造していく」を大会テーマに、いまグループホームの運営事業者と利用者が直面しているケアホームとの一元化への制度改革、高齢化対策、建築基準法や消防法等による規制、外部のホームヘルプサービスの利用などの諸課題について、討議と学習を行い、それらへの関心の高さは 1,083 名もの全国からの参加者数からも伺うことができました。

ここでは、研修プログラムの中から、神戸百年記念病院の看護師 野村 真波氏による特別講演と、支援員・世話人さんの思いをぶつけあった第 5 分科会の様子を報告・紹介いたします。

特別講演

神戸百年記念病院 看護師 野村 真波 氏



講師の野村 真波さんは、静岡市で看護師を目指す専門学校生だった 20 歳の時、交通事故により利き腕の右腕をなくされました。夢破れ人生のどん底を味わった末に、不安や葛藤を乗り越えて再挑戦し、いま、再起のための義手製作で世話になった兵庫県立リハビリテーションセンターのある同じ神戸市内の病院で日本で初めての義手の看護師として働いておられます。リハビリの一環として始めた水泳がめきめき上達し、就職後も本格的な障害者水泳を始め、日本代表の一人として出場した 2008 年北京パラリンピックでは 100 m 平泳ぎで 4 位、100 m バタフライで 8 位となり、また 2012 年ロンドンパラリンピックでは 100 m 平泳ぎ 8 位という成績を残されました。研修会では「あきらめない心」と題した約 1 時間のご講演をいただきました。以下にその抜粋をご紹介します。

私の出身は静岡市です。3 人きょうだいの真ん中の次女として生まれました。とにかくおてんば娘で、5 歳で始めた水泳のほかバイオリンやトランペット、ソフトボールなどいろんな習い事をしました。母との約束があったので小学 6 年まではやめさせてもらえず、いやいややり続けたので上手にもなりません。看護師になりたいと思ったのは、病気になったとき私たちが看病する母の姿を見て、そんな母の手助けをしたいということからでした。でもランドセルに教科書も入れずに体操服とお弁当とリコーダーを入れて通うほど勉強が大嫌いでした。中学になって自分の学力の無さに気づかされ、これでは看護師どころか高校にもいけないぞと言われて一念発起、そこから夢のために猛勉強をしました。看護師の道を歩き始めたのは 15 歳の時でした。衛生看護科のある地元の高校に、聴診器や白衣・医学書や看護の教科書ですっしりと重い鞆を持って通う毎日はとても充実していました。準看の資格を得て高校を卒業し、これから看護師になって仕事をもって、結婚して母になって普通の生活が送れると思っていました。まさかこの後に交通事故に遭遇して自分の人生が大きく変わるとは思ってもいませんでした。

アルバイト先の病院と看護専門学校との往復の毎日、自分の好きなことに向かって楽しくて満ち足りた日々のある日、バイクで実習先に向かう途中でトラックと接触、タイヤに腕を巻き込まれました。右腕を失くして奪われた夢、その絶望から私を引き上げてくれたのは、命があるだけで儲けものという母の言葉でした。何としても看護師の夢を追いかけてみよう、事故から数か月、苦しいリハビリを続けこの義手を手に入れました。フック船長の手は私にはあまりにも衝撃的でしたが、今ではこれがないと私は看護師じゃないと思えるようになりました。

今でもトラックが怖いし、無くなったはずの右腕が疼きます。でもそれを忘れさせてくれるもの、それがリハビリで始めた水泳で、次第にのめり込んでいきました。負けず嫌いな性格もあって驚くほどに成長し、日本代表としてパラリンピックに出場できるまでになりました。世界ランク 5 位でメダルの可能性もあったロンドンパラリンピックでは、鈍痛と致命的な関節の故障を抱えながらの女子 100 m バタフライにまさかの予選敗退となり、涙を流しましたが、静岡での家族との再会の後、再び私の恩返しの場所である神戸の職場に戻ってきました。腕一本失ったことは大きいけれど、それによって得たものの大きさと、今皆さんの前に笑って立ってられる自分をかみしめています。

グループホーム支援スタッフが思いを語り合った第5分科会

和歌山編福祉事業団 サポートセンターらん
総括 杉谷 修
(近畿地区地域支援部会長)

『生活支援員・世話人さんの思いをぶつけよう』をテーマに、「NIKORI いぞむ」統括施設長の山崎 千恵美氏と「翔の会入道雲」施設長の村尾 朗氏の進行で、参加者の日頃の思いや悩みを聞き、互いに語り合ってもらいましたが、進行役のお二人の絶妙なコンビネーションが会場内を和まし、参加者による積極的な意見交換をすることができました。

参加者からは、「日頃の支援のあり方や具体的な問題点を話し合うことができ、これからの支援に参考になった。」「悩みや不安に思っていたことが軽減され、自分の仕事に自信が持てるようになりました。」「悩みどころは一緒でした。利用者さんあっての私たちです。」「同じ立場の者として、同じ悩みを聞き、皆さん大変な思いで仕事・支援をされていることが分かり、もう少し頑張ろうと思った。」「グループホームの世話人という同じ立場の方たちのリアルな意見を聴けて良かったです。」「グループホームの数と同じだけ個性があって、その場に応じて楽しさやトラブルもあり、皆さんのお話を聞けて楽しかったです。」「全国の方々が同じような悩みを持ち、同じように頑張っているという事を知ることができ、とても勉強することができました。」等々多くの感想が寄せられました。

第5分科会は、当初の予定より参加者が増えたこともあって、うまく意見が集約できるのか非常に不安でもありましたが、進行役お二人の力で多くの参加者から「新たな発見を得た。」「頑張ろうという元気をもらった。」等、前向きで好評価の声を聞くことができホッとしました。

今回の大会は制度の変更の年でもあり、参加者には非常な戸惑いを持ちながらの研修会であったと思いますが、研修会を通じて制度の理解を深めていただけたのではと感じています。

平成26年度

日中活動支援部会施設長及び職員研修会

報告者：光岡 研士（玉津みつみの家施設長）



平成26年8月27日（水）に日中活動支援部会施設長及び職員研修会が、「自閉症研究の最前線－その理解と支援－」をテーマに“あすてっぷ神戸”（神戸市）にて開催されました。年に1度の開催ではありますが、今回は、県下会員施設から83名の参加者があり、現場での関心の高さを感じました。

講演に先立ち、兵庫県障害福祉部障害福祉局障害者支援課 施設整備・就労対策班主幹 向田 憲司様により「行政報告」が行われました。平成26年4月1日改正後の生活介護の人員基準の改正をはじめ、私たちの業務に大きな影響を与える「土砂災害防止法」「土砂災害警戒区域等における災害要援護者関連施設の新規立地に関する要綱」等についての説明を受けました。

講演に先立ち、兵庫県障害福祉部障害福祉局障害者支援課 施設整備・就労対策班主幹 向田 憲司様により「行政報告」が行われました。平成26年4月1日改正後の生活介護の人員基準の改正をはじめ、私たちの業務に大きな影響を与える「土砂災害防止法」「土砂災害警戒区域等における災害要援護者関連施設の新規立地に関する要綱」等についての説明を受けました。

「自閉症研究の最前線－その理解と支援－」では、大阪大学大学院 医学系研究科保健学専攻教授である永井 利三郎様により講演をいただきました。永井様は、永年の小児科での臨床経験をもとに、てんかん、自閉症スペクトラム研究、DSMの翻訳にご活躍されています。

講演では、永井様の研究、実践にもとづいた発達障害への様々な視点からのアプローチのお話がありましたが、あたたかい寄り添いの姿勢が根底に流れていて、分かりやすく参加者の理解をすすめるものでありました。私たちが支援を行う上でのこれからのヒントと元気をたくさんいただきました。

県知協の日中活動支援部会では、今後とも、会員の皆様様が求め、満足できる内容の研修会を企画したいと考えていますので、よろしくごお願い申し上げます。（了）

平成26年度

児童発達支援部会研修会

報告者：福西 堅固（ななくさ学園施設長）

入所部会と通所部会が一つになり児童発達支援部会となったことを機に研修会を実施し始めて、今回が3回目となります。今回は“愛着形成からみる子どもの発達と学齢期・思春期への支援”をテーマに9月1日に兵庫県福祉センターにて参加者41名で実施致しました。

まず午前中は、テーマに沿った演題で医療法人古橋会 揖保川病院副院長の中井 祥博氏よりご講義をいただきました。子どもの成長に伴っての母子の愛着関係やそれを基盤とした対人関係の発達について、また愛着形成を阻むものとして子どもの障害や親の離婚・死亡・虐待・精神疾患があること、そして発達障害の各種別や特徴・精神症状・二次障害、その特性を理解した上での支援方法等に至るまで具体的な事例を交えてわかりやすく説明していただき、今後の支援に大いに役立てていきたいと思いました。

午後からは、グループワークとして愛着形成に関連した事例2題を挙げ、5つのグループに分かれて事例検討を行いました。通所施設からは、友達との関わりがうまくできないことから特定の友達やそれを止める職員に対して他害行為を行う4歳の児童の事例。入所施設からは、再婚後の母の家出を発端に4歳頃より児童養護施設→障害児施設と長い施設生活の中で思い通りにいかないことでイライラし、喧嘩や器物破損行為、また特定の女性へのこだわりや不適応行動を起こす15歳の児童の事例が出され、各グループ内で活発な意見交換がなされました。各自が所属する同じ種別の施設からの事例に対しては共感する部分も多く各自の施設での話をしたり、反面違う種別の施設の事例については熱心に話に聞き入る姿がそれぞれのグループで見られました。

通所施設では、愛着形成まっただ中の親の行動へのジレンマや支援の困難さ、入所施設からは愛着形成が不完全なまま思春期を迎えた子どもの不適応行動や二次障害に対する支援の困難さ等、お互いの施設の問題等について知り・聞き・話すことができ、

それぞれの施設の支援を見つめ直すとてもよい機会となったと思います。また、この研修を機に各自が新たな自分のネットワークを作ることができれば幸いです。

今後も通所・入所それぞれの部門がお互いを理解し、子ども達をつなぎ、協調していくひとつの機会として研修会を続けていきたいと改めて思いました。（了）

障害者施設職員虐待未然防止支援事業・調査研究事業の今後の取り組み

平成 26 年度は、兵庫県委託の第 2 期目に当たる「障害者施設職員虐待未然防止支援事業」として、1. 虐待未然防止アドバイザー（仮称）等の施設等への定期巡回による実地指導、2. 施設等職員からの個別・具体的な相談に対して専門的見地からのアドバイスの実施、3. 協会顧問弁護士の分析・見解の共有などに取り組みます。その具体的な取り組みの手順としては、兵庫県社会福祉協議会の調査研究助成事業とタイアップして、9 月 19 日より学識経験者（関西福祉大学の谷口 泰司氏）、第三者評価機関代表（播磨地域福祉サービス第三者評価機関の河原 正明氏）、県知協の権利擁護委員会メンバーによる調査研究委員会を立ち上げました。この委員会の事業内容は、

- 1) 現状把握のための調査 兵庫県知的障害者施設協会傘下の県内知的障害者施設及び事業所を対象に、虐待や権利侵害の虞とその防止のための取り組みの現状を把握するためのアンケート調査を行う。
- 2) 評価票の作成 1) の調査結果をもとに、虐待や権利侵害を未然に防止するためのいくつかの項目について、各施設・事業所において自己点検・チェックができるような評価票の作成を行う。
※ この評価票により自らの強みと弱さなどが把握できることが期待される。
- 3) 研修モデルの作成 1) の現状把握、2) の評価票を通しての自己分析の状況を踏まえ、職員向けの研修モデルを作成し、各施設・事業所での取り組みの参考に供する。
- 4) 行政への政策提言 次年度以降の兵庫県福祉計画のための、権利擁護・虐待防止に関する政策提言につなげていく。テーマは人員配置の問題、人材育成の問題、中堅職員育成と専門性向上など。

今年度内に、会員の皆様には、アンケート記入や、評価票によるモデル評価、モデル研修、巡回指導等でご協力いただくこととなりますが、よろしく願いいたします。

予告記事

平成 27 年 賀詞交換会

と き：平成 27 年 1 月 16 日（木）

ところ：神戸メリケンパークオリエンタルホテル

このたびは、宝塚歌劇 100 周年に当たる為、プログラムに往年の宝塚メンバーによるお話とショーを組み込みました。歌と踊りの楽しみと、共にお食事を囲み、来る年の健闘と協力を確認するひと時にいたしましょう。

近畿地区研修会 2 題

京都と大阪の事務局より参加要請があります。

1. 第 37 回 近畿地区施設長等会議

平成 26 年 12 月 2～3 日（火・水）

於：京都ガーデンパレス

2. 第 51 回 近畿地区職員研修会

平成 27 年 2 月 12～13 日（木・金）

於：ホテルアウィーナ大阪

大会の成功のため、是非ご協力ください！




神戸市知的障害者施設連盟

事務局長 正心 徹

(グリーンホーム平成 施設長)

今年度の神戸市知的障害者施設連盟の動きは、現在の役員体制での2年目となります。事業は、例年通りの流れで、制度学習や事業所見学等の研修事業、障害者スポーツへの協力事業、制度・政策への要望活動等、順調に進んでいます。

連盟では、昨年度より組織整備を続けていて、今年度は、事業の実効性を高めるため、部会及び委員会の整備に重点を置いています。そこで、現在連盟を構成する48会員事業所の内訳をご紹介します。成人入所15(定員合計835名)、成人通所26(定員合計1,233名)、児童入所3(定員合計128名)、そして児童通園4(定員合計略)となっています。

連盟では、養護学校・特別支援学校卒業予定の生徒さんの進路調整を、支援費制度導入後、統一ルール(「市知連方式」と名付けています)に基づいて10年間実施していますが、会員外からも3事業所が、趣旨に賛同し参加していただいています。

進路調整会議(学校連絡会)は、神戸市内からの通学生を受け入れている養護学校・特別支援学校の進路指導担当教諭、教育委員会、神戸市所管課、当連盟調査研究部会により、年数回開催しています。内容は、卒業予定生徒の進路確定に関わる日程や書式の確認と、制度改正や移行措置後の想定など、情報交換も行っています。なお、この会議資料として使用する各事業所(入所を含む)の空き状況は、ホームページにも掲載しています。

神戸地区職員部会の動きとしましては、全体総会(「利用者の本当の思い」をテーマとした講演会を含む)に始まり、今年度も研修委員会による勤務専門職の交流と専門知見の獲得を目標にした研修に重点を置き、看護師・栄養士・支援員の種別研修会を開催し、多数の参加がありました。

また、スポーツ委員会においては、ボウリング選手選考記録会(第14回全国障害者スポーツ大会長崎大会の神戸地区選手選考記録会)を開催し、6月に代表2名を決定し、9月～10月にかけて、神戸地区ボウリング代表選手強化練習(8回程度実施予定)に取り組んでいます。予定としては、11月に「職員草フットサル大会」を開催し、昨年度、好評であった「利用者リレー大会」を2月下旬に開催します。




会長 玉木 伸宜

(協同の苑さつき 施設長)

阪丹但地区では、今年度も職員の資質向上のための研修を以下の予定で6回開催する予定にしております。今年度は、これまでと少し趣を変えて、障がい特性や個々の違いを理解しながらも人としての共通性についても学び・考える企画が多くなっています。単なる知識ではなく、初心に帰ることが出来るようなお話を聞ける(体験できる)機会になることが期待されます。特に2月1日の研修は、これまで何処でも企画されたことが無い内容になるのではないかと今から楽しみにしております。

なお、今年度も「福祉・介護従事者キャリアアップ研修事業」の補助金申請をしており、参加費無料で開催できる予定です。是非ともこの機会を有効活用し、知識と意欲の向上に活用いただければと思います。

(定員との兼ね合いもありますが、以下の研修は県知協加盟の全施設にご案内する予定です)

1. 10月4日(土) 支援員研修(三田市)『ホントのねがいをつかむ～ちがうけどおなじ～』

講師：東京都立墨東特別支援学校 いるか分教室教諭 佐藤 比呂二氏

2. 11 月 17 日 (月) 支援員研修 (伊丹市) 『体験を通して得る “Gentle Revolution”』
講師：姫路獨協大学医療保健学部 客員教授 太田 篤志氏
3. 12 月 5 日 (金) 管理職・中堅職員研修 (三田市) 『大人の発達障がいについて ～雇用する立場として～』
講師：兵庫教育大学 臨床心理学コース 准教授 嶋崎 まゆみ氏
4. 未定 = 1 月ごろ 事務職員研修 (三田市) 『新社会福祉法人会計への移行実務』
講師：前原会計事務所 公認会計士・税理士 前原 啓二氏
5. 2 月 1 日 (日) 支援員研修 (三田市) 『目からウロコ ～障がいのある人の行動を心と身体から読み解く～』
講師：姫路獨協大学 医療保健学部 客員教授 太田 篤志氏
神戸大学大学院 人間発達環境学研究科 准教授 赤木 和重氏
6. 2 月 21 日 (土) 支援員 (西宮市) 『自閉症研修 (阪神福祉事業団共催)』
講師：特定非営利活動法人 自閉症 e サービス 理事長 中山 清司氏

播淡地区の報告



職員代表者会 会長 細木 義浩
(ふるさと寮 サービス管理責任者)

播淡地区では、今年度もスポーツ、研修、研究、文化の 4 委員会 で 4 つの事業を開催していております。平成 26 年度の各委員会の事業の進行状況を報告させていただきます。

- ① **スポーツ委員会** 平成 26 年 6 月 6 日 (金) に加古川運動公園陸上競技場にて第 26 回ばんたん親善運動会を予定しておりましたが、残念ながら雨の影響で実施することが出来ませんでした。来年度に向けて、委員会も開く予定で、今年度の悔しい思いをぶつけて、より良い運動会になる事を願い検討している状況です。
- ② **研修委員会** 毎年 2 回の研修会を企画し、第 1 回目は平成 26 年 8 月 18 日 (月) に高砂福祉保健センターにて研修会を行いました。講師に揖保川病院 副院長 中井 祥博氏をお招きし、「知的障害のある方の精神疾患について学ぶ」というテーマで講義があり、専門的な疾患や医療についての理解を深めました。午後からはグループワークの形式で各施設における事例や質問を先生に投げかけ、お応えいただきました。その中でどのように支援していけばいいのかなど、実際の現場でも活かせるような講義であったと思います。第 2 回目はまだ未定ですが、委員の方で検討し実施していく予定です。
- ③ **研究委員会** 平成 25 年 8 月 27 日 (水) ～ 28 日 (木) ニューサンピア姫路ゆめさきにて「第 28 回播淡地区施設長・職員一泊研修会」を開催しました。多方面からの講師をお招きし、テーマは「近年の障害者福祉の動向と施設職員のあり方について」とし、委員長をはじめ委員の中で、円滑に事業が実施できるように尽力をしました。参加者は播淡地区 98 名、地区外から 6 名の 104 名となり、ますますの播淡地区の活性化と情報交換・交流の場として定着しております。
- ④ **文化委員会** 平成 26 年 11 月 25 日 (火) に第 23 回ばんたん・ゆうあい文化祭を開催予定です。今年度も姫路文化センターでの実施予定で、すでに参加者申込み多数もっております。昨年度の反省、また今までの実績を踏まえ、利用者の方々に安心かつ安全に楽しんでいただけるよう企画・運営を目指しております。

以上、播淡地区職員代表者会 4 委員会の事業の進行状況として報告させていただきます。また、職員代表者会としましては、前年度の会長からの引継ぎ、反省などを活かしながら、これからも円滑に各事業が実施・運営できるよう取り組んでいきたいと思っております。

《日誌抄》

4月	11日	児童発達支援部会会合	神戸市	兵庫県福祉センター相談室
	15日	第1回役員会(新旧合同)	神戸市	兵庫県福祉センター
	16日	監事監査第1回	神戸市	県知協事務局
	17日	播淡地区総会	姫路市	姫路自治福祉会館
	25日	阪丹但地区総会	三田市	三田市総合福祉保健センター
	28日	支援スタッフ委員会三地区意見交換会、神戸地区(市知連)総会	神戸市	県知協事務局、楠公会館
5月	8日	近畿地区第1回役員会=総会	和歌山市	ホテルグランヴィア和歌山
	9日	第8回兵庫県障害者のじぎくスポーツ大会事前説明会	神戸市	兵庫県福祉センター
	14日	平成26・27年度部会代表者第1回会議	東京都	アパホテル浜松町
	15日	日本福祉協会第1回理事会、県知協定期社員総会・役員懇親会	東京都・神戸市	日本福祉協会会議室、兵庫県福祉センター・[Shin]
	17日	第8回兵庫県障害者のじぎくスポーツ大会(フライングディスク・卓球)	三木市・神戸市	県立三木総合防災公園陸上競技場、県立スポーツ交流館
	18日	第8回兵庫県障害者のじぎくスポーツ大会(水泳)	三木市	三木山総合公園屋内プール
	21日	第1回正・副会長会	神戸市	県知協事務局
	22日	全国グループホーム等研修会打合せ	神戸市	県知協事務局
	24日	第8回兵庫県障害者のじぎくスポーツ大会(陸上・ソフト・サッカー)	三木市	県立三木総合防災公園陸上競技場・野球場・球戯場
	25日	第8回兵庫県障害者のじぎくスポーツ大会(ボウリング・バレー・バスケット)	神戸市	神戸六甲ボウル、県立スポーツ交流館
	27日	防災協定締結式	神戸市	兵庫県庁
29日	日本福祉協会定時評議員会・第2回理事会	東京都	浜松町東京會館	
6月	3日	第1回権利擁護委員会会合	神戸市	県知協事務局
	4日	第1回守る会(福祉7団体)打ち合わせ会	神戸市	県知協事務局
	9日	近畿地区事務局業務を和歌山より引き継ぐ	神戸市	県知協事務局
	12~13日	全国施設長会議	東京都	国際フォーラム
	12日	支援スタッフ委員会会合	神戸市	県知協事務局
	17日	第2回権利擁護委員会会合	神戸市	県知協事務局
	18日	第2回役員会	神戸市	兵庫県福祉センター
	19日	全国グループホーム等研修会打合せ	神戸市	県知協事務局
	27日	児童発達支援部会会合	神戸市	兵庫県福祉センター相談室
7月	2日	保険業務説明会	神戸市	県知協事務局
	3日	10月の一泊研修下見	神戸市	メープル有馬
	7日	全国グループホーム等研修会打合せ	神戸市	神戸ポートピアホテル
	16日	第2回正・副会長会	神戸市	県知協事務局
	17日	日本福祉協会理事運営会議	東京都	日本福祉協会会議室
	22日	近畿地区会長会	神戸市	ANAクラウンプラザホテル神戸
	24~25日	第26回全国グループホーム等研修会	神戸市	神戸ポートピアホテル
29日	第2回守る会(福祉7団体)打ち合わせ会	神戸市	県知協事務局	
8月	6日	のじぎくスポーツ大会反省と意見交換会	神戸市	兵庫県福祉センター
	18日	第3回役員会	神戸市	兵庫県福祉センター
	20日	近畿地区第1回政策委員会	大阪市	大阪知福協事務局
	22日	第3回権利擁護委員会会合(調査研究委員会の立上げの件)	神戸市	県知協事務局
	27日	平成26年度日中活動支援部会研修会	神戸市	あすてっぶ神戸
	28日	近畿地区第2回役員会⇒以後、神戸にて開催	神戸市	ANAクラウンプラザホテル神戸
9月	1日	平成26年度児童発達支援部会研修会	神戸市	兵庫県福祉センター
	3日	支援スタッフ委員会会合	神戸市	県知協事務局
	5日	県知協緊急三地区会長会	神戸市	県知協事務局
	8日	兵庫県社協第2回民間社会福祉施設職員互助会運営委員会	神戸市	兵庫県福祉センター
	12日	全国グループホーム等研修会反省会	神戸市	県知協事務局
	17日	相談支援部会連絡会	神戸市	兵庫県福祉センター
	19日	第1回権利擁護踏査研究委員会、第3回正・副会長会	姫路市・神戸市	姫路自治福祉会館、県知協事務局
	25日	平成26年度「福祉の集い」	神戸市	神戸メリケンパークオリエンタルホテル

編集後記

神出鬼没と思えるゲリラ豪雨が日本の各地に深刻な土砂災害をもたらし、また、木曾・御嶽山の突然の噴火という心痛むニュースが駆け巡った平成26年度の夏から秋への変わり目でしたが、ここにきてようやく秋の装いが周囲に満ちて参りました。スポーツに、芸術に、食欲に、行楽にと、この季節でしか味わうことのできない楽しみに英気を養って、カレンダーを埋め尽くしているスケジュールをしっかりとこなしていきたいと思っています。(協会事務局: C, K)